



つきぐみつうしん 10月

令和3年10月1日(金)

尚徳福祉会 井荻保育園



空を見上げるとヒツジ雲が出ていて、秋を感じる事が出来ます。最近のつき組は、友だちと関わる姿が増え、じっくりと遊び込むようになりました。登園してくると、自ら友だちを誘って遊ぶ姿が見られています。クラス内では、積み木でよく遊んでいます。去年まで積み木を並べる遊びだったのが、友だちと一緒に積み木を重ねて「ここは〇〇さんのおうちだよ」と想像を膨らませています。友だちと協力しながら高いおうちを完成させると、「やった、出来た」と皆で喜びます。また、積み木が崩れてしまっても、「また作ればいいか」と気持ちを切り替える姿に、成長を感じています。

●今月のねらい●

- ・友だちや保育者と一緒に秋の自然に触れて遊ぶことを楽しむ。
- ・手洗いうがいを丁寧にし、健康に過ごす。
- ・身の回りの事を自分でしようとする。



「自分で」がんばってるよ

つき組では、自分が遊んだ玩具は片づけてから、次の遊びをすることを習慣づけるよう、声を掛け合っています。子どもたちには、「お片付けしてから次の遊びをしようね」と伝えると、最近は片づけなくては、と気付くようになっていきます。

外遊びから入室してから着替えをするよう習慣をつけています。服を畳む練習をしており、「こうするの?」と聞きながら畳む姿が見られています。上手に出来たよ、と喜ぶ姿がこちらでも嬉しくなります。

◎ことばづかい◎

だんだん言葉が増えてきた、つき組の皆さん。「かしてあげるよ」「どうぞ」「お友だちやすみかな」「さびしいな」と、たくさんの言葉が飛び交います。時には、「いやなこと言われた」と言うこともあります。これも、社会性の発達であり、自己主張と相手を理解している意図であります。自我の芽生えには2つの意味があり、「自分の意志の表現」と「周りへの関係への気付き」です。自己主張は、おのずと自分でせざるを得ない状況をえます。相手とも上手く関わることを学ばなければなりません。

これは幼児期全体の課題ですが、この時期は能力的に未然で思うようにならないために、周りの人を試すような形になります。楽しみを共有しながら、反抗の交わり方を工夫していくと、それが子どもにとって自分の出し方や荒れた気持ちの切り替え、安定を取り戻す方法のモデルとなります。多様な関わり方の工夫をしていきたいです。

